

飯伊地区 産業経済動向

No.521 2022/8
(4.9.25発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

http://www.iidashinkin.co.jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標	実数	前月比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	2,464枚	33.3%	△ 8.3%	△ 2.3%	△ 5.2%
	金額	3,747,098千円	37.0%	△ 1.9%	△ 3.2%	2.3%
うち不渡発生状況	枚数	0枚	(前月 0枚)	(前年同月 1枚)	(前々年同月 1枚)	(令和元年同月 0枚)
	金額	0千円	(前月 0千円)	(前年同月 72千円)	(前々年同月 5千円)	(令和元年同月 0千円)
倒産件数 (負債総額1千万円以上)	県内	6件	(前月 3件)	(前年同月 1件)	(前々年同月 8件)	(令和元年同月 6件)
	飯伊	4件	(前月 0件)	(前年同月 0件)	(前々年同月 1件)	(令和元年同月 0件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(7月)	81戸	22.7%	32.8%	84.1%	26.6%	
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(7月)	1.55倍	(前月 1.46倍)	(前年同月 1.41倍)	(前々年同月 0.90倍)	(令和元年同月 1.48倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,683台	△ 9.2%	△ 7.5%	△ 4.6%	△ 24.7%
	中古車	619台	△ 16.2%	△ 2.4%	△ 6.8%	△ 0.5%
軽自動車新規登録台数 (長野県自動車協会) (7月)	新車	3,741台	3.7%	6.8%	△ 13.4%	△ 7.9%
	中古車	1,037台	△ 12.9%	4.4%	△ 11.7%	3.0%
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	94,473台	1.0%	16.2%	3.5%	△ 26.6%
	出	96,410台	0.3%	17.1%	5.6%	△ 25.7%
中央道利用台数 (松川インター分)	入	60,053台	4.5%	23.8%	△ 8.5%	△ 30.7%
	出	56,871台	3.1%	19.6%	△ 10.6%	△ 31.7%
中央道利用台数 (園原インター分)	入	18,422台	△ 3.8%	35.4%	1.0%	△ 9.9%
	出	17,560台	10.2%	31.0%	△ 0.1%	△ 13.6%
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	49,011台	14.8%	27.6%	19.9%	△ 10.2%
	出	49,635台	7.4%	18.8%	20.4%	△ 9.6%
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	34,788台	△ 1.4%	41.6%	-%	-%
	出	33,753台	△ 2.4%	36.4%	-%	-%
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)	101件	△ 7.3%	△ 12.2%	△ 70.6%	△ 30.3%	
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)	2件	(前月 0件)	(前年同月 1件)	(前々年同月 12件)	(令和元年同月 7件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	17,974人	27.6%	156.3%	308.5%	△ 51.2%
	飯田～名古屋	11,004人	5.4%	60.1%	165.2%	△ 51.9%
	飯田～長野	2,995人	△ 16.0%	17.8%	△ 1.5%	△ 67.6%
	伊那・駒ヶ根～新宿	12,878人	31.1%	205.2%	299.2%	△ 56.3%
市内循環バス乗車人数	左回り	2,642人	0.5%	△ 8.2%	△ 8.8%	△ 29.3%
	右回り	2,643人	△ 1.5%	△ 3.1%	0.5%	△ 26.9%

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (<http://www.iidashinkin.co.jp>) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物性油墨インキ
「ソヨール」を使用しました。

再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIはやや悪化、世界的なインフレの影響で先行き悪化を見込む声も増加

当月の製造業の業況判断指数（DI）はマイナス12.0で、前月から4.0ポイント低下。翌月予測はマイナス29.2で、前月から37.9ポイント低下。世界的なインフレの影響による景気減速を懸念してか、機械製造を中心に、先行きの景況感について悪化を見込む声が多く聞かれた。また、原材料に関しては秋以降にさらなる上昇が見込まれるとの声が多い。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

☑受注、販売… 販売の前月比は業者により増減分かれるが、前年比では増加との声はやや多い。受注の前月比は横ばい～増加との声はやや多い。

☑景況感…… 当月の景況感は概ね横ばいとの声が多く、先行きについても同様。ウクライナ情勢、半導体不足、円安、原材料高など先行きの不透明感が依然強い。

[企業からのコメント]

- ・8月は操業日数が少なく、前月比の売上は減少。コロナの影響が継続して懸念される中、販売状況は回復してきていたが、この先の状況においては不透明感が出てきている。
- ・半導体ばかりでなく、あらゆる部品の値上げに加えて輸送費もアップしている。取引先も製品価格への反映についてある程度は認めてくれるが、値上がり分全ての吸収はできそうにない。

●半導体、液晶製造装置向け機械部品

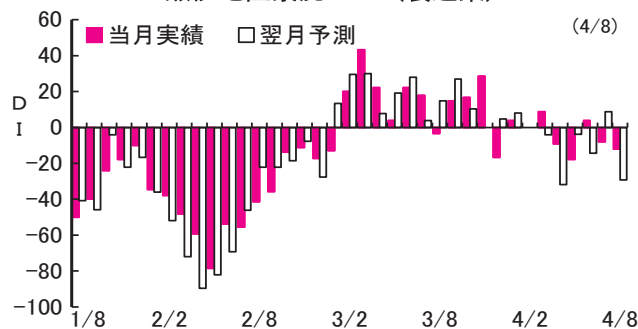
☑受注、販売… 販売の前月比は横ばい～増加、受注残の前月比は減少～横ばい。好調は継続も、年度内は減少傾向になる可能性もあるとの声も。

☑景況感…… 当月の景況感は悪化～概ね横ばい、先行きについては悪化との声が多い。中長期的な拡大傾向は変わらずも、世界的なインフレにより市場全体が踊り場状態になりつつあるとの指摘も。

[企業からのコメント]

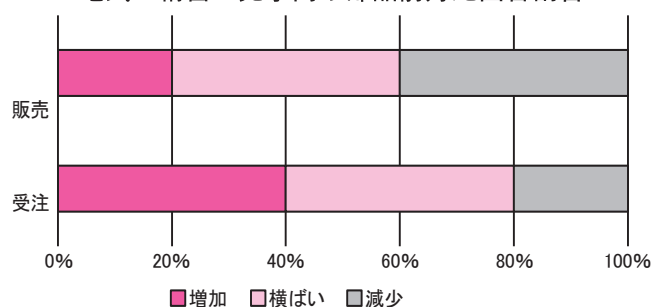
- ・「グローバルインフレに伴う需要萎縮で、半導体価格下落の可能性、米中関係による輸出品目制限等の不確実性が高まってきており、半導体装置市場全体が踊り場状態になりつつある」「一部大手メーカーからの発注が、全体的に減少傾向となってきている。エンドユーザーの計画見直し、OEM品や輸入品等の部材調達難による減産となっている。ただ急激な落ち込みではなく一休みという感覚で捉えている」「メイン顧客から、年内の回復は見込めないとの話があったが、回復はさらに先送りになると思われる。多少ではあるが、先行き予測に陰りが見え始めているように感じる」
- ・「鉄鋼を中心に価格が上昇気味。原油高も影響し、副資材も軒並み高騰中。アルミ等の一部では、価格低下や価格据え置きとなっている部材も」「原材料費およびエネルギー費の単価は依然として上昇傾向。高止まりしているようにも感じるが、今後まだまだ上昇すると予測する」

飯伊地区景況DI（製造業）

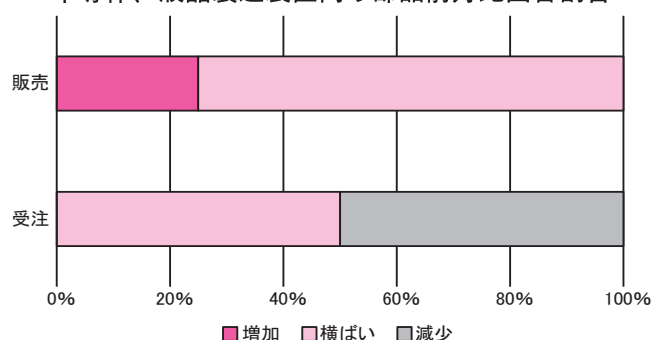


【DI（ディフュージョン・インデックス）】とは…
景気に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
「先月と比べて景気が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景気が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合

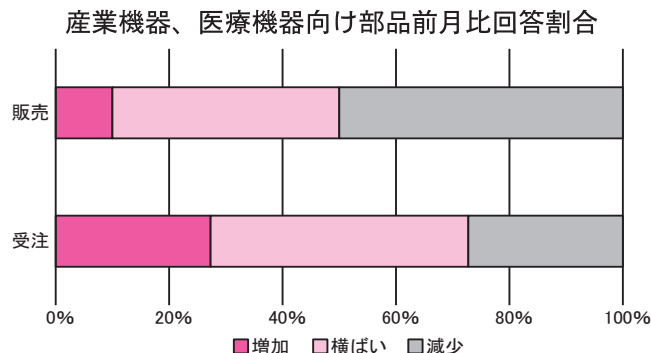


半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



●産業機器、医療機器向け等機械部品

- ☑受注、販売… 受注、販売ともに前月比は増減分かれるが、販売では減少～横ばいの声が多く聞かれた。
- ☑景況感…… 足元の景況感は好転、悪化で見方が分かれた。先行きについては悪化を見込むとの声が多く聞かれた。



[企業からのコメント]

- ・「来月納期の案件は増加。ただ、購入品の入りが悪く、納期の先送り案件も出ている」「例年、8月は忙しい月となるが、今年は通常通りの1か月であった」「景況感はず変わらず。なかなか上昇気流に乗らない」「コロナ感染者が出て、仕事思うように回らないところも」
- ・「電気料金、ガス代、燃料代が大幅に値上げ。物価上昇が響く」「材料は8月は高止まり。鋼材が9月より上昇」「原材料費の上昇に合わせ、製品価格を若干値上げした」
- ・「今後、時間をかけて増員する方針」「現状は問題なしも、今後パート従業員を求人募集予定」「人員募集中」

●漬物、半生菓子、菓子原料等

- ☑売 上……前月比では横ばい～やや増加。景況感は業者により見方が分かれる。
- ☑原材料価格…全ての業者で上昇との声。再値上げの話が多く先が見えないとの声も。

[企業からのコメント]

- ・「諸物価の上昇により、消費動向の悪化が懸念される」「9～10月の菓子値上げが多い」「秋は動きが弱く、これから閑散期に入る」「大手食品メーカーの値上げが報道されているが、やはり消費者の消費行動が慎重になっているように感じられる。これからの消費行動は『コロナの影響』とは切り離して考えていく必要がある」
- ・「規格変更による値上げを、秋から実施する業者が多いとのこと」「野菜は安い時期であったが、農業生産者も肥料・農薬などの値上がりや天候による収量減に加えて、大幅な価格安ではやっていけない。日本の農業の今後が案じられる」

●水引、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- ☑売 上…前月比は横ばい～やや増加。景況感はやや悪化との声。

[企業からのコメント]

- ・円安による影響が大きく、輸入業者は苦しんでいる。最低賃金の大幅な増加もあり、製品価格がやや上昇した。
- ・販売価格の改定により販売数量は減少したが、粒粒辛苦して利益の確保はできた。

●上記以外の製造業

- ☑建築用金属製品…販売は、前月比では増加、前年比では減少。景況感は概ね横ばいという。
- ☑自動車向け部品…販売は、前月比、前年比ともにやや減少。景況感は概ね横ばいという。
- ☑印刷……販売は、前月比では減少、前年比では増加。次月以降は横ばいの見通しという。
- ☑服飾……販売は前月比で概ね横ばい。先行きの景況感はやや悪化を見込むという。

[企業からのコメント]

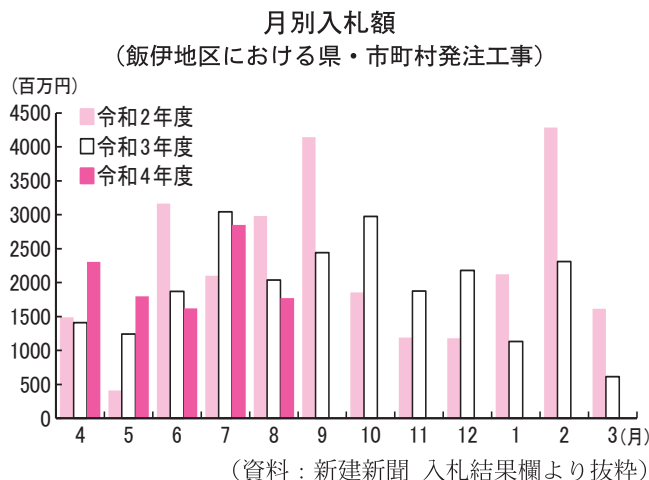
- ・コロナ禍以前の状況には至っていないが、若干上向いてきている。
- ・遅れていた首都圏の再開発事業で、参入できる分野が少しずつ動き始めてきた。ただ本格的には年明けからとなる見込み。
- ・コロナ感染がなかなか収まらず、イベント関連の開催に不安があるため、印刷物にも引き続き大きな影響がある。
- ・服飾の海外生産が円安、運賃高騰のためになかなか進まず、また中国ではコロナ感染が拡大しており、生産地に入れないう状況にもなりつつある。その影響で国内生産にますます振り替わってきており、国内工場も生産過剰の状況が続いている。
- ・資材の値上げが追い打ちをかけてくる。猶予期間も短く、翌月から価格改定というようなものもある。封筒類も、全てのメーカーが口を合わせたように値上げとなってきた。顧客の理解を得ながら、値上げに取り組んでいくしかない。
- ・SNSやYouTuberなどの影響を受けて、BtoC的な動きが活発化しているが、原材料の高騰はもとより材料が手に入らない状況が続いている。

建設業

官公需

概況 8月の公共工事入札金額は前年比で1割強の減少、
一昨年比では約4割の減少に

- ☑公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約17.6億円（9月15日調査時点）。前年に比べ13.2%減少、2年前との比較では40.7%減少。
- ☑受注残高…………… 前月比は業者により増減分かれる。前年比では減少との声やや多い。公共工事の発注量が前年に比べ少ないとの指摘も。
- ☑原材料価格…………… 多くの事業者で上昇との声。一方工事価格は変わらずとの声が多い。



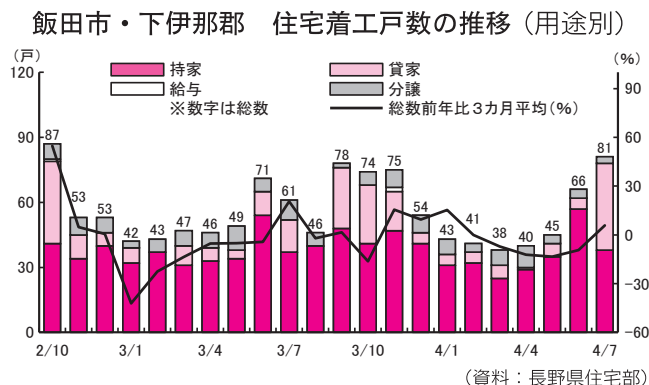
[企業からのコメント]

- ・「災害工事が完了してきたためか、公共工事の発注量が前年に比べ少ない。そのためか、入札参加業者が多く競争が激しい」「公共工事を1件受注」「組織の規模に応じた受注はある。災害工事が見込めない中、年度末に向けて受注が必要」
- ・長野県でも当地域は公共工事がある方ではあるが、例年に比べ仕事量が少ないのか、仕事のない業者もある。忙しい業者とそうでない業者の格差は激しい。
- ・各種資材の値上げが続いており、設計単価の変更や納期対応に対処してほしい。

民需

概況 令和4年7月の住宅着工戸数は81戸で前年比33%増。
貸家の増加分が大きく、2022年1月以来の前年比プラスに

- ☑住宅着工戸数… 当地区の7月の住宅着工戸数は81戸。前月比23%増、前年比でも33%増。3か月平均戸数の前年比も今年1月以来のプラスに転じたが、貸家の増加分が大きく影響しているため、回復傾向が継続するのか注視したい。
- ☑原材料価格…………… 多くの事業者で上昇が続いているとの声。工事価格もやや上昇したとの声も複数寄せられた。



[企業からのコメント]

- ・「規模が小さな工事が多少増えてきたが、大きな工事はない」「新築工事の受注はない。リフォーム工事のみ」「製造業の工場増築計画がストップになった。取引先から『待った方がよい』との話があったとのこと」
- ・資材の市場価格は値上がり傾向が継続している。年末にさらなる値上げを予定している建設資材もあるとのこと。
- ・工場の移転など、大きな工事は受注できる会社が少ない。営業力がある会社は人材も多い。

建設資材等

概況 8月の生コン、骨材の売上は、前年比は業者により増減分かれる

- ☑生コン…売上は前月比、前年比とも業者により増減分かれるが、減少との声やや多い。
- ☑骨 材…売上は前月比では概ね横ばい、前年比は業者により増減分かれる。

[企業からのコメント]

- ・当月の生コンの主な出荷は、三遠南信工事、トンネル工事、バイパス工事、堰堤・砂防工事、リニア関連工事、工場・マンション建設に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の2%弱。
- ・生コンへの骨材納品について6～8月は前年比マイナスの結果となった。今後は出荷が多くなる予定。
- ・ロシア産石炭が輸入禁止となり、円安も重なってセメントの価格が大幅上昇。今後生コンの値上げについて検討が必要。
- ・日野自動車の不正により、来年夏頃まで生産中止とのこと。車の購入時期を早めるなどの対策を考えたい。

商業・サービス業

概況 コロナ第7波の感染者数はピークを迎え、景況感はやや悪化。

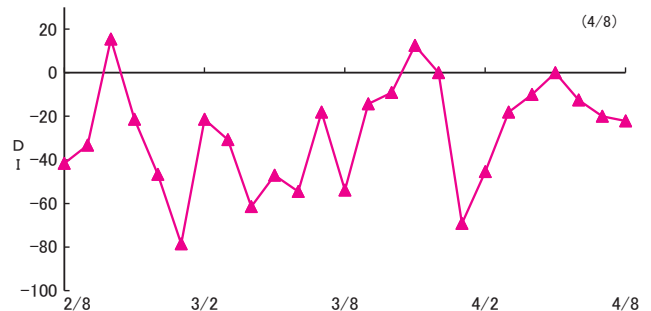
9月以降はやや好転との見方も

当月の商業・サービス業の業況判断指数（D I）は、マイナス22.2で、前月から2.2ポイント低下。

コロナ第7波の感染者数は、全国的にも当地域においても、お盆明けの8月中旬～下旬にかけてピークを迎え、飲食業を中心に景況感はやや悪化した。ただ、国による行動制限は実施されなかったため、県外客の飲食や観光の需要は昨年よりも多かったとの声も聞かれた。

コロナ感染者数の減少傾向もあってか、9月以降の景況感はやや好転を見込むとの声が複数聞かれた。

商業・サービスD I



主な業種の動き

●小売業 概況 売上は前月比ではやや減少。景況感はやや悪化～横ばい

☑売上…前月比ではやや減少との声。前年比でも減少したとの声も聞かれた。

☑仕入単価…やや上昇との声。先行きについても上昇見込みという。

[企業からのコメント]

・仕入業者の大幅なリストラや営業時短が行われており、業者自体の店舗縮小、在庫縮小がなされ、仕入商品が不足がちになっている。仕入価格も上昇してきており、今後の売上もコロナ増加傾向で影響が心配される。

●卸売業 概況 景況感概ねやや悪化～横ばい

☑売上…前月比、前年比とも商材により増減分かれるが、前月比ではやや増加との声が多い。

[企業からのコメント]

・昨年に引き続き野菜全体の動きが悪く、作柄不良の北海道・青森県産の大根・人参と、高温障害のトマト・菜類を除き価格安。野菜全体では入荷量やや減でも価格も安く不振であった。果実は、早生のつがる（りんご）は昨年より出荷が遅れ、入荷が昨年比大幅減。桃と西瓜は順調な販売、梨の幸水もやや出荷が遅れた。果実全体では入荷やや減、価格はやや高とまずまずの結果となった。

・設備の老朽化や最新設備に更新する際、容量不足解消のための既存施設改修の需要がある。また、太陽光発電システムの全量買い取り制度から自家消費の時代へと移り、蓄電池システムの需要も高まってきた。カーボンニュートラルに対応した提案を併せて行っていきたい。

・信州の屋根ソーラーや信州省エネ家電応援キャンペーン等、需要が見込める政策があるので、顧客サポートを行って最終消費者の需要に応えられるよう努力したい。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 コロナ感染の急拡大を受け、飲食業の景況感悪化。ただ次月以降はやや好転を見込むとの声も

☑売上…前年比は、飲食業では業者により増減分かれる。宿泊業では前年よりは売上増加との声が多い。行動制限がなかったため、県外客や観光需要は動いていたとの指摘も。

[企業からのコメント]

・コロナ第7波のピークを迎えたが、行動制限がなかったため、少ないながらもお盆の県外来店客が増えた。そのおかげで、昨年同月比で売上がやや増加した。ただ、コロナ以前のような新盆等の利用は少なく、低迷している。県外客による昼食の需要はかなり回復しているが、地元の利用は慶事などの少人数のものを除けば少ない。9月以降の予約が少し増えているのが救い。

・コロナ感染が増えすぎて、どうにもならない。近所や友人の家族感染で警戒して、宴会、会食の予約がない。

・過去最高の感染者数が続いている中で、各種行事の中止、団体等の行動制限により人流がストップしてしまっている。特に夜間のタクシー需要は、コロナ感染者数の推移とともに激減している。最低賃金も10月から上昇し、人件費が多くを占める「労働集約産業」のタクシー業界にとっては大きな問題である。

・コロナの影響はあるが、観光需要は動いていた。直近になってのキャンセルや予約が重なったため、フロントの業務が非常に大変だった。コロナ前の2019年と比較すると、お盆明けからの観光需要が伸び悩み、週末も稼働率が思ったより伸びず。

・今年の暑さは格別の中、やはり星空ナイトツアーを中心に若い人が動き、予約量は増加したが、人手不足のために予約数を調整せざるをえなかった。また8月は天気が悪く、一度として星が見られた日なかった。

・コロナの影響による、宿泊施設の直近の予約やキャンセルの動きは全国的に同じような傾向にあり、まだしばらくは続きそう。9月のエリアマーケットは好調に推移しており、需要をうまく取り込みたい。

・「想像を超えて仕入原価は上がる。今月も来月も上がっており、いつ値上がりか止まるのか」「LPG価格は対前年比で2割値上がり」「諸物価の値上がりにより、利益を圧迫されている」

・このコロナ禍がいつまで続くか分からず、精神的なものの方が辛い。今後の対策や政策いかんではかなり厳しい状況になる。

リニア沿線紀行

リニア名古屋駅予定地周辺の状況

～リニア駅工事の範囲が拡大～

リニア名古屋駅現場を訪れる機会を得たので、現地の様子を報告する。

1. 西口駅前の風景が激変

名古屋駅の中央コンコースを新幹線乗り場を横に見て進み太閤通路を出る。高速バス乗り場横は前々からフェンスに囲まれた工事現場だったが、駅前通り（市道椿町線）の向こう側が大規模工事現場に変わっていた。名古屋駅向かい中央のビックカメラ名古屋駅西店とその向かって右隣のビルまではそのままだが、その隣から無くなっている。

現場の工事仮囲い（フェンス）で囲われている部分を地図に落としした（本頁下および次頁概略図）。併せてJR東海の中央新幹線名古屋駅新設環境保全計画書（平成28年12月/令和3年6月更新）に示されている作業エリア（グレー網掛け）と駅範囲（黒破線）を落とし込んだ。これをみると工事エリア内の建物がほぼ撤去されフェンスで囲われていることが判る。残る建物はビックカメラに向かって右側のビルくらい。駅西は戦災を免れ、区画整理が行われずにあったため、土地所有者、建物所有者、テナント入居者等の権利関係が複雑で用地買収が難航する、と指摘されたが、ここまでになった。

フェンスに沿って回る。表通りから一步入ると閑静な住宅街。戸建てや集合住宅（マンション形式が多い）が並んでいる。この辺りは中村区則武2、盛んに輸出されて外貨獲得に貢献してきた洋食器ブランド「ノリタケ（Noritake）」の命名の基となり、現ノリタケカンパニーリミテド（本社：名古屋市西区）の創業の地であることが判る。

2. 昭和通りを駅方面へ行くと

更に回り込んで昭和通りに行く。この通り沿いは名古屋駅に更に近いため、飲食店を中心に店が並んでいる。

通りの片側にフェンスに囲まれた建物2つ、中華料理店（いわゆる街中華）と卸売店がある（概略図★印）。これは移転交渉が遅れているのではなく、駅に掛かるのを免れたため、このまま居続けられる建物。中華店店主が「営業を続けられるが工事騒音・振動は凄い」といった発言を名古屋のTV局（CBC）のローカルニュースで見たことがある。残念なことに訪問時には閉店していて話を聞くことができなかった。

その先を行くと椿神明社となる。歴史のある神社で創建年不明ながら15世紀には既にあり平安時代まで遡る可能性があるという。こちらは、敷地の一部が駅予定地に掛かり社殿の曳家をした。詳細を施工業者のHPで確認できた（<https://www.uotsushaji.co.jp>）。現在は移転の一切が完了し、社地は整えられていた。

この一帯の工事の進行状況は、フェンスの中を窺い知ることはできないが、重機等の様子から地中連続壁の施工が進められているようだ。



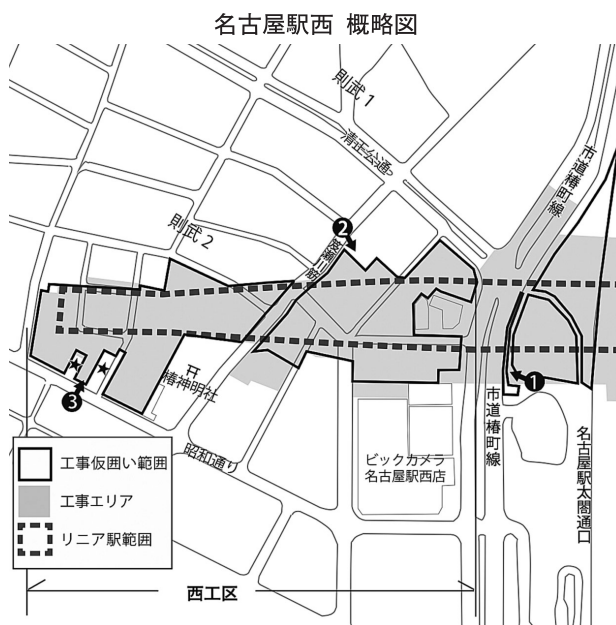
名古屋駅西口前の状況（頁下概略図①）



筈瀬川筋の工事状況（同②）



移転を免れた建物（昭和通り、同③）



3. 名古屋駅東側の状況

名古屋駅東側に移って様子を見た。駅東側桜通口を出ると2015年に再築されて高層化され、印象を一新した大名古屋ビルヂングが聳える。その向かって左隣のビル（東洋ビル）は解体され、工事ヤードとなっていた。

こちらでも工事フェンスに沿って歩いたが、以前の歩道が工事エリアとなって無くなっていたり、道路も1車線取られていたり、特に賑わう駅東が通行しづらい状況となっている。

東工区に属する区域を歩いてみると、こちらでも計画に示された工事エリアとフェンスの区域が一致しているように見えた。



ビルが解体され工事ヤードになった区画
(下概略図④)

右端は大名古屋ビルヂング、中央のビルは工事エリアに掛からない

名古屋市の再開発計画

4. 名古屋市の再開発計画

名古屋駅東口の正面にあった Monument「飛翔」はほぼ解体が終わっていた。これはリニア本体工事関連ではなく、名古屋市の駅前再開発計画によるもので、本年6月から解体工事が行われていた。

計画では、駅前の名駅通と桜通の線形を変え、Y字型交差点にして東口側に広場をつくるのだという(右図)。

また、現名古屋駅の地下にリニア駅が設置された後、埋め戻されると広大な空間が出来上がる。名古屋市はここを「スーパーメガリージョンの中心にふさわしい重層的な拠点の形成を目指」すとして、「①顔となる広場の整備、②まちへの動線の確保、③タクシースペースの改善」を挙げている(名古屋市「名古屋市周辺まちづくりの現在の状況」令和3年4月更新)。

広場について具体的には、令和3年9月にプロポーザルを実施し設計チームを選定。同チームの提案を基にデザイン計画を作成していく、としている。

5. 終わりに

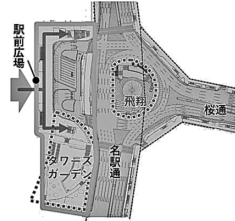
以上、名古屋駅周辺を駆け足で訪問した。例によって、現地で事業者等から説明を受けていないので、あくまでも現場を見た印象で記している。

名古屋市内では以上の他に、名駅周辺では名鉄名古屋駅の再開発やささしまライブ24地区方面への結節強化、高速道路の名古屋駅アクセスの改善などが進められている。栄地区では久屋大通公園のリニューアルなど盛りだくさん。また名駅一伏見一栄地区都市機能誘導制度により容積率緩和+地区計画による高度利用と都市機能の増進が謳われている。いずれにしろ、名古屋においても「リニアから降りて(通過しないで)もらえる街」を目指して模索しているといえる。

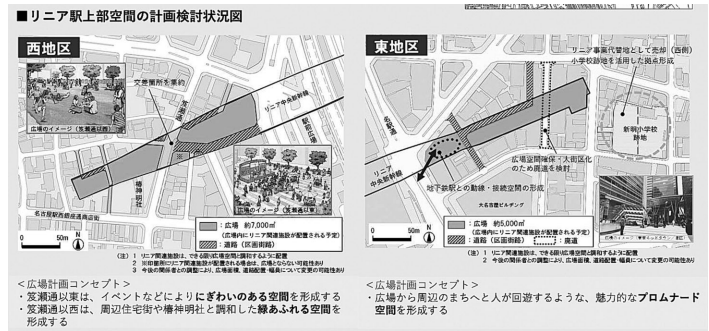
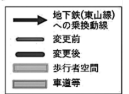
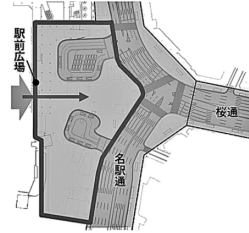
リニア開通後も名古屋は当地域にとって最も近い都会となる。今後も注視していきたい。

(都市計画変更の主な内容)

【変更前】

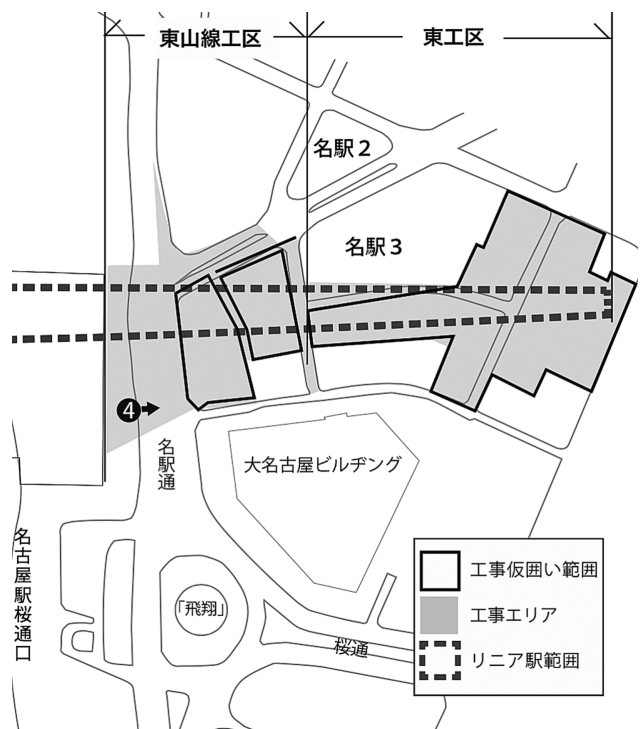


【変更後】



「名古屋周辺まちづくりの現在の状況」(名古屋市HP)

名古屋駅東 概略図



斜視(ナナメ)力のすすめ(35)

行政の傾聴と市民主体のまちづくりー小田原の歴史と目指す未来

CRC地域再生診療所所長
井上弘司

小田原と言えば、歴史好きには北条早雲とか小田原評定を連想する方が多いでしょう。「小田原提灯ぶら下げて♪」の歌を思い出す方、食いしん坊の方はカマボコが浮かぶ方もいるでしょう。現在の小田原の城下町は戦国時代の北条早雲が、相模国(さがみのくに:現在の神奈川県)を統一したときに遡ります。NHK大河ドラマの北条氏とは縁もゆかりもなく、鎌倉時代に活躍した北条氏と分けるため「後北条氏」とか「小田原北条氏」と呼ばれます。

豊臣秀吉による小田原攻めまでは、平城(ひらじろ)でありながら難攻不落と言われた小田原城。その大きな特徴は延長9kmに及ぶ「総構(そうがまえ)」です。城下町外郭をぐるりと囲んだ総構は、自給自足が可能であり長期籠城戦でも揺らぐ気配もなかったのです。ゆえに総動員を掛けた秀吉軍以外は包囲もできず、難攻不落と言われたのでしょう。のちに前田利家が金沢の城下町を整備する際、同様に総延長は約9km総構えを採用していますし、徳川家康も江戸城下町を整備で、総構えの考え方を取り入れるなど、先見性のある城構えだったと言えます。今回この小田原市を、駆け足で取り上げます。



総構の堀

■交通の要衝は文化交流の拠点となった



小田原は東海道膝栗毛にも登場した宿場町として発展。現在の街も江戸時代から続く東西の交通の要衝です。現在、国道1号線が通過し、東名高速に直結する小田原厚木道路があります。鉄道はJR東海新幹線と東海道線の駅、伊豆箱根鉄道と小田急電鉄も乗り入れています。そして国内でも豊かな駿河湾を控える小田原港があるなど、恵まれた環境にあります。かつての小田原は箱根への通過点でした。しかしよくよく考えればインバウンドの「ゴールデンルート」上であり、観光においても地の利があるといえます。

こうした利便性に加え、古くからの交流による歴史文化を育んできました。明治時代には政財界の要人や文化人をはじめ多くの著名人が小田原に別邸を構えるほど、小田原は魅力ある暮らしやすい土地だったのでしょう。しかし一大商業集積地であった中心市

街地も、人口減少や店舗の撤退など次第に衰退していきました。

その現状を踏まえ、市は「市民の力で未来を拓く希望のまち」を目指す将来像と定め、様々な取組を行っています。

■ミナカ小田原と市民交流センターUMECO

商工会議所や商店街、自治会、交通運輸等、様々なまちづくりをしている方々をタスクフォースメンバーとして策定した「平成の城下町・宿場町構想」を原案に、小田原駅東口の再開発ビル「ミナカ小田原」が、2020年12月にオープンしました。「ミナカ」は、「真ん中」という意味の古語で、万葉集では日本一の霊峰・富士山を表しており、未来の小田原で人々が「であい、ゆきかい、にぎわう中心=みなか」として愛されるようにとの願いが込められています。地上14階+地下1階の「タワー棟」と4階建ての「小田原新城下町」からなる複合商業施設で「みらいの宿場町小田原」を表現しています。地元小田原や西湘地域の店舗を中心にした飲食物販店が35店舗、箱根湯本の老舗「天成園」別館のシティホテル、300名収容可能なコンベンションホール、最上階には小田原市街が一望できる足湯庭園やレストラン、さらにクリニックや保育園ほか公共施設を集約しています。

もう一つの施設「おだわら市民交流センターUMECO」は、ミナカ小田原より早い2015年に開設。うめこの愛称は小田原動物園で60歳の長寿を全うしたゾウのウメ子のように、



施設に足を運び親しんで欲しいと付けられました。基本コンセプトを「つながる」として、「誰でも気軽に」「シェアしながら」「地域の課題を解決する」実現の場として、幅広い相談から協働、学習、コーディネートなどの機能を有し、市民の活動と交流の拠点となっています。この市民交流センターUMECOから、ミナカ小田原を経て小田原駅まで連絡橋が直結しており、市民や観光客を集客する新たな交流拠点として賑わっています。

しかしこれらの拠点は、東口駅前のみへ市民や観光客を誘導する傾向があり、市全域への波及効果など、評価では二分されています。長くアドバイザーとして入っている丁野朗氏は、「中心エリアの生業の元気と食・水産を軸とした早川エリアの活性化が当面の課題」と言います。

その解決策の1つが、「なりわい交流館」や「街かど博物館」を核とした「まちあるき」の体験プログラムです。

■小田原なりわいツーリズム

小田原の名産には、前述した提灯やかまぼこ、梅干や干物、ろくろや寄せ木の木工、そして昭和当時の発明品「冷凍ミカン」もあります。これらばかりでなく、市民の日常に当たり前のようにある食文化が、目の前に埋もれていたのです。

小田原市では、小田原城の再建や駅前の再開発などのハード事業で観光客の受入環境を整えながら、街中に残っていた生業や農林水産業、古くから蓄積された文化を活用する方向で、日々の「なりわい（生業）」をメインとした「まちあるき観光」の「小田原なりわいツーリズム」を開始しました。

本プログラムの肝は、小田原が有する「なりわい」と「暮らす人」です。

これは日常の観光化であり、暮らしている人々をリスペクトできないと

事業は成立しません。「なりわいツーリズム」が、いわゆる観光収入だけを目指すのではなく、生業の活性化を図り、住民の元気を創造しようとする考え方があるのは、市民主体の考え方が根底にあるからなのでしょう。

どこにでもある日常は、実はどこにもない、その地域だけのものです。本質的なモノ・コト・ストーリーに触れる「なりわいツーリズム」を担う平井丈夫さん(小田原まちセッションズ代表)を始め、案内人の語りからは、まちを愛してやまない熱い思いがヒシヒシと伝わってきます。



案内人の平井丈夫さん

■地域をオープンにすること

地域をオープンにするには、まず地域にどのようなメリットをもたらすかを事前に想定し、事業の中にあるべき姿を埋め込む必要があります。

消費者ニーズが「質」に変化したように、地域も観光客の「質」や「価値」を追求していくことも1つの選択です。

高質の観光客は、現地での体験に関心が高いし、地元の良質な品々を求めます。東京から1時間以内で到達する小田原は日帰り観光になりやすいのですが、仕込み方次第で、まちあるき観光の滞在時間を延長させることができ、お金を落としてくれます。例えば、博物館や文化・芸術イベントに出かける文化ニーズを有する人は、価値の高い旅行者に分類されるでしょう。

この高クオリティの観光客だけをターゲットとすると、オーバーツーリズムによる地域の環境悪化を防ぐことができますが、地域全体で高質の客ばかりを狙うと、日帰り低予算の旅行者層を締め出すリスクが発生します。古くより栄えた産業（生業）文化に触れてもらう「なりわいツーリズム」に参加してくる観光客は、地元ガイドを活用したり、ローカルな飲食店に立ち寄ることで滞在時間や消費額が伸びるなど、中小の地元店にとって、ハイクラス観光客と違う、重要なお客様となります。地域をオープンにする「なりわいツーリズム」は、知的好奇心を満たすプログラムであり、かつ身近に地元の方々と触れ合うことができ、小田原の大切な心に変質するリスクは少ないでしょう。

もちろん小田原市の観光の核は小田原城ですが、まちづくりの代表は「今ある地域資源を発信・連動させたり、見せ方を変えてイノベーションを起こし、地域の価値を高め、未来を見据え、先駆けた持続可能な運動展開をしていくこと。また、観光を起爆剤とした小田原市全体の総合力をボトムアップする好循環のサイクルも構築していく」と言います。

訪問客とローカルビジネスの双方の多様性が堅持できれば、「世界が憧れるまち小田原」の実現は近いのかも知れません。

執筆者 井上 弘司 (いのうえ ひろし) 1952年飯田市生まれ。飯田市エコツーリズム推進室長、産業経済部企画幹、企画部企画幹を経て2009年3月退職。現CRC地域再生診療所所長、元NPO法人しんきん南信州地域研究所首席研究員。観光カリスマ百選(国土交通省)、地域活性化伝道師(内閣府)、地域力創造アドバイザー(総務省)、地域再生マネージャー(ふるさと財団)、オーライ!ニッポン会議企画委員、長野県観光振興審議会委員。

長野県奨学金返還支援制度導入企業サポート事業

●「長野県奨学金返還支援制度導入企業サポート事業」

長野県は、従業員への奨学金返還支援制度を設ける県内企業に対して、負担額の一部を助成する事業を、来年度（令和5年4月）から開始する予定をしており、現在参加予定企業を募集している。

これは、県内に本社等を置く中小企業等で、県の「職場いきいきアドバンスカンパニー」や、国の「くるみん」「ユースエール」「えるぼし」といった、国・県が働きやすい企業等に対して認証している制度を取得している企業等であって、従業員への奨学金返還支援制度を設けている企業等が対象となっており、従業員の奨学金返済に対して企業が負担した額の2分の1（1人あたり年額10万円上限）を、5会計年度の間、補助するもの。

学生が重視する傾向がある事業者の福利厚生に対し支援を行うことで、県内における若年層の就業促進と、県内企業等の若年層人材不足解消を図ることを目的としている。詳しくは、長野県ホームページ

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/rodokoyo/happyou/documents/220610chirashi.pdf>)に掲載されている。

事業内容詳細	
対象企業	<ul style="list-style-type: none"> ・県内に本社等を置く資本金10億円未満の中小企業、NPO、社会福祉法人、公益法人等 ・従業員への奨学金返還支援制度を設けていること ・以下の各種認証制度を1つ以上取得していること 県「職場いきいきアドバンスカンパニー」国「くるみん」「ユースエール」「えるぼし」
対象従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・対象企業が返還支援制度を創設後、採用された者（中途採用者を含む） ・雇用期間の定めのない正社員である者
補助内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 対象経費：対象従業員に代わって学生支援機構に対し直接返還するか、企業が奨学金返還費用を対象従業員に給付した額 ② 補助割合：1/2 ③ 上限額：10万円（支援対象従業員1人あたり・年額） ④ 上限人数：3人（1社あたり・各年度） ※国・県の各種認証制度の上位認証取得若しくは各種認証を2つ以上取得している企業は5人 ⑤ 補助期間：入社した年度を含め5会計年度（支援対象従業員1人あたり）
※上記要件は令和4年6月時点のものとなります。今後の状況等により変更となる場合もございますのでご了承ください。	

資料：長野県ホームページ

●奨学金を借りた方の返済月額はどれくらい？

それでは、奨学金を借りた方の返済月額はどのくらいだろうか。

労働福祉中央協議会「奨学金や教育費負担に関するアンケート調査（2019年3月）」によると、奨学金の毎月の返済総額（39歳以下で学生支援機構の奨学金利用者計）は、平均16,880円/月（中央値14,976.3万円/月）となっている。

因みに、同調査によると、平均借入総額は、324.3万円（中央値：285.6万円）で、平均返済期間は14.7年（中央値15.5年）となっていた（いずれも39歳以下で学生支援機構の奨学金利用者計）。

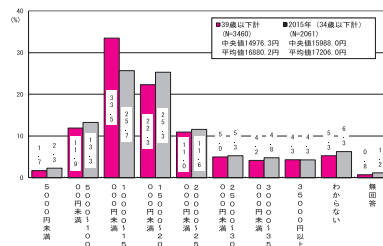
類似の制度はいくつかの県で先行して行われているが、広島県の場合、県に補助申請をした企業等の、従業員に対する奨学金返済のための支援の給付額は、支援制度の設計は企業等ごとに様々なものの、約10,000円/月程度のことが多いという。

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 中村 達）

奨学金の毎月の返済額

➤ 平均16,880円

奨学金の毎月の総額（39歳以下で学生支援機構の奨学金利用者計）

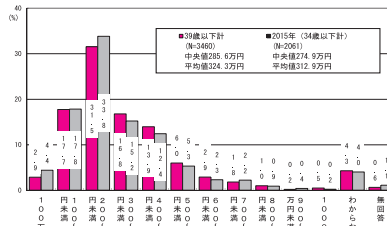


奨学金の借入総額

➤ 平均324.3万円

➤ 借入総額「500万円以上」が12.4%

奨学金の借入総額（39歳以下で学生支援機構の奨学金利用者計）



資料：いずれも労働福祉中央協議会「奨学金や教育費負担に関するアンケート調査（2019年3月）」